

## 令和2年度 滋賀県気候変動適応推進懇話会（第1回）議事概要

- 1 開催日時 令和2年（2020年）8月31日（月）14時00分～16時00分
- 2 開催場所 滋賀県庁北新館5 - A会議室（大津市四丁目1-1）
- 3 出席委員 上田委員、河瀬委員、白岩委員、田中委員、中野委員、  
仁連委員、馬場委員、向井委員、吉積委員
- 4 議 事
  - （1）滋賀県の気候変動影響等とりまとめ（素案）について
  - （2）気候変動予測計算の方向性について
  - （3）その他

### 【配布資料】

- 資料1 滋賀県気候変動適応推進懇話会について
  - 資料2 滋賀県の気候変動影響等とりまとめ（素案）
  - 資料3 気候変動予測計算の方向性（実施計画）について
  - 参考資料1 滋賀県気候変動適応推進懇話会設置要綱
  - 参考資料2 令和元年度国民参加による気候変動情報収集・分析委託事業  
（結果概要）
  - 参考資料3 気候変動影響に関するアンケート（案）
- 

## 5 議事概要

### （1）滋賀県気候変動影響等とりまとめ（素案）について

#### （委員）

P.20の放射強制力と各シナリオの図については、IPCC第4次評価報告書の箇所に記載があるが、この図にはRCPシナリオの記載があり、第5次評価報告書の際の説明資料のものであると思われる。記載するのであれば、第5次報告書の箇所に記載すべきでないか。出典の確認と掲載場所を検討すべきである。

(座長)

冒頭第1章で、滋賀県は、北部と南部で気象条件が違っていると説明いただいた。一方で、第2章のアメダス観測結果では彦根にしか言及されていない。北と南で気候区分が違っているのであれば、地域ごとのアメダスデータや県全体の状況を併せて示すべきではないか。

また、確認であるが、第3章の気候予測は全県を対象としたものか、アメダスと同様に彦根ということか。

(事務局)

第3章の気候予測は全県を対象としたものである。

(委員)

2章は全て彦根での観測結果であり、3章は全県だと対比が出来ない。県全体の状況がわかるようにすべきではないか。

(委員)

熱中症に関しては、高齢者がかかりやすいなど、脆弱性に関する言及を行うべきではないか。また、分野ごとに分かれて整理がなされているが、例えば、災害時に避難所で感染症になるなど複合的な影響や、分野横断的な対策に関する記述や社会的な要因によっても影響が変わってくることもあるので、社会的情報についても整理が出来ないか。

(委員)

滋賀県では、過去に脆弱性にかかわる社会的な情報を取りまとめていたと記憶しているので、確認されて記載するべきでは。また、県民生活の記述が手薄に感じるため、こういったところに生活にどう影響がでるか記載するべきではないか。

(委員)

図4-3 枯死の写真は高温の影響だけで枯れているものとは思えず、水不足も影響していると思われる。選ぶ写真に関しては良く確認した方が良いと思われる。図4-1 一等米比率の経年変化(全国と滋賀県)があるが、これだけで低下とは言えない。一等米比率と高温年を比較し解析を行う必要がある。また、3章までのところは全部確認するのは大変なので、数行程度の要約を付けるべきではないか。

(委員)

近年、琵琶湖での溶存酸素濃度の低下が顕在化している。溶存酸素が低下した時は、カメラを湖底に降ろして確認も行っているのですが、深刻さがわかるようにヨコエビのへい死の写真なども追加してはどうか。

(委員)

自然災害のところには、土砂災害に関する情報も追加すべきである。また、6章では、森林管理の話や、産業・経済活動のところには、例えば、農作物の収量の減少が発生することで、商業に影響を及ぼす可能性や、琵琶湖でのレジャーなど自然災害により観光に影響を与える可能性もあることから、これらのことにも言及すべきである。加えて、民間企業の適応策の話も明記するべきではないか。

(委員)

彦根のデータだけで過去の状況を把握するのは難しく、北と南では状況は異なることから、地域で区分して整理するのも有効ではないか。熱中症に関しては、地域ごとでの重みづけをする必要がある。また、インパクトチェーンも記載してはどうか。

(オブザーバー)

琵琶湖への流入汚濁負荷は減っており、水質は悪くない。ヨコエビも溶存酸素低下が原因で死んだのかはわからない状況の中で、琵琶湖の水質が悪化していると印象を与えるのは誤解を生む。琵琶湖での生態系の変化は様々なインパクトが重なり合って生じている。環境のシステムがどう変化を受けているのか、ただ単に生じた結果だけを並べるだけでなく、そのような観点からの調査研究を進める必要がある。

## (2) 気候変動予測計算の方向性について

(委員)

白未熟粒の発生率というのに拘りはあるのか。

(事務局)

拘りは無いが公開されている予測式が白未熟粒のものであったので、白未熟粒を対象にした。

(委員)

白未熟粒の発生と並び、胴割粒の発生も重要視している。胴割粒も対象にして欲しいと考えている。また、表1-2は全県を対象とした計算であると思うが、地域差もあるので、ある程度地域ごとに見ていくべきと思われる。

(委員)

農林水産省からも先月に「農業生産における気候変動適応ガイド・水稻編」という資料が出ており、ここに白未熟粒の発生率と出穂後20日間の平均気温との関係性について情報を出している。関数式そのものは出ていないが、参考にしてはどうか。

(委員)

熱中症搬送患者数の予測計算結果を県民向けの啓発に使用するという観点から、現在は県全体と高齢者の搬送患者数に注目してあるが、年齢別、特に農業従事者が多いということを見ると中高年の熱中症リスクは高いと考えられ、中高年の搬送患者数にも焦点を当てるべきと考えている。

また、どこで熱中症が発生したのかという場所や時間帯の情報も重要となり、適応策が図られていた場所での発生か否かが解れば有用と思われる。

表2-2に搬送患者数の総計がまとめられているが、日毎の状況や6月という早い時期でも搬送者数は高い傾向にあり、月別に解析を行うことも必要ではないか。

(委員)

今回、県民の関心が高かったという3分野の予測計算を行うという説明があったが、滋賀県としては、やはり琵琶湖の予測計算をしてほしいと思う。

近年、琵琶湖湖底での溶存酸素濃度の低下が深刻な状況にある。気候変動の湖沼への影響という視点でも今後、モニタリング調査の充実や予測計算などの研究の推進が必要になると考えている。

(事務局)

琵琶湖への影響については、本県としても取り組みたかったが、1年~2年で結果を整理するのは困難な様子であったので、実施は見送った。

(委員)

農業分野でも熱中症分野でも、気候シナリオのうちMRI-CGCM 3.0を使用しているが、一つの気候モデルの推計値は、色んなモデルの幅で見ると、高め、もしくは、低めに出る傾向がある。このため、いくつかのモデルで計算を行うべきである。また、予測結果をどのように適応策に繋げていくのか道筋が必要である。目指す将来像により必要となる適応策は異なり、その適応策検討のために必要な影響予測も異なってくる。どういう社会を目指すのか将来像を念頭に置いてほしい。

(3) その他

(委員)

アンケートについて、項目にWebでのヒアリングの可否を入れておき、可と回答のあったところに話を聞くことはできないか。

(事務局)

出来なくは無いので検討する。

(以上)